



米

平成30年産 米集荷結果



農業経営支援課
石川 顕史

平成30年は、静岡県の作況指数が97と過去5年の中でも大変低い数字となりました。その要因として、7月の高温、9月の長雨、刈取り間際の台風襲来など異常気象があげられます。米の一等米比率も一部を除き例年に比べて低い状況となりました。

《集荷量》

37141袋 (目標対比95%)

《一等米比率》

○コシヒカリ(早生) 49% (前年64%)

○きぬむすめ(中生) 90% (前年89%)

○あいちのかおり(晩生) 50% (前年79%)

○全体 57% (前年74%)

JAおおいがわの集荷数量の内、コシヒカリが約28%・きぬむすめが15%・あいちのかおりが36%を占めています。

《格付理由トップ3》

1位…心白粒・白未熟粒 54%

2位…カメムシによる着色粒 25%

3位…胴割粒 7%

《発生要因》

○心白粒・白未熟粒

地力及び日照不足による生育後半の栄養不足、出穂期の高温、早刈り、倒伏等

○カメムシによる着色粒

農道・空き地・畦畔等の雑草、薬剤防除の不徹底

水田内のヒエ・ホタルイにカメムシが誘引

○胴割粒

刈取り前の早期落水、刈遅れ、乾燥機による急激乾燥及び過乾燥

《対策》

○対策① 品種の選定

30年産の集荷結果を見ても“きぬむすめ”がとも品質安定に優れていることがわかります。JAおおいがわでは、より良い品種を求めて新品種の試験栽培も行っています。

○対策② 暑さに負けない土作り

水稻にはケイ酸がとても大事です。ケイ酸を補給するためにも土壌改良材を入れましょ

う。他にも腐食や堆肥もおすすめてです。K以外の微量要素も取り入れましょう。

《対策③》 水管理の徹底

水稻は、生育時期によって水管理が違います。必要な時に水を入れ、いらないときには切る。当たり前のことですが、地域性もあり難しいことです。地元の方と協力し、徹底した水管理を行いましょう。

今後、平成30年のような異常気象が起こる可能性があります。以上の事に気を付けて、おいしい米を作りましょう!!

《高付加価値米集荷結果》

高付加価値米研究会では、金芽米加工原料米として平成29年度から“きぬむすめ”による特別栽培米基準による玄米を栽培しています。今年度の結果は以下のとおりです。

	出荷者数	面積(ha)	集荷数量(袋)	合格率(%)
30年度	31人	30.88ha	2,422袋	64%
29年度	14人	12.42ha	721袋	47%